



校長の目 ～西小日々通信～



令和4年9月21日（水）

2時間目は1年生が絵を描いていました。虫が大きく、そして虫たちと遊ぶ自分や友達を描いています。とても楽しそうな絵ばかりです。このところ、1年生は生活科で虫捕りを続けてきたので、そのときの体験からイメージを膨らませています。生活科は、1989年（平成元年）告示の学習指導要領で新設された教科です。それ以前は、小学校低学年でも理科や社会がありましたが、生活科新設をきっかけに無くなりました。低学年の発達段階では、社会的思考と理学的思考は未分化であることから、生活科では、自分と自然とのかかわり方、自分と社会とのかかわり方を体験的に学ぶこととしています。虫捕りもその一環です。豊かな体験活動は、様々な学習のきっかけや土台となりえます。楽しかった虫捕りの体験は、多くの気づきとともに、会話や文章や絵といった様々な表現方法に広がっていきます。



音楽は、どの学年も校内音楽会に向けての練習が盛り上がってきています。先週までは、個人練習や各楽器ごとの練習が多かったのですが、だんだん全員で音を合わせる練習へと進んでいます。まだ、ゆっくりとしたテンポですが、合奏全体の形が見えてくると、子供たちも嬉しそうです。画像は、6年生の授業の様子です。音楽が得意な子もいれば、もちろんそうでない子もいます。仲間同士でお互い助け合いながら、練習に取り組んでいます。本番まで、あと1か月少々です。



ローマ字は、3年生の国語で学習します。ローマ字は、訓令式とヘボン式がありますが、教科書のローマ字一覧表には両方載っています。（訓令式だと、「し」→si。ヘボン式だと、「し」→shi。）主に学習するのは、訓令式の方です。今の子供たちは外国語活動やタブレットPCでアルファベットが身近になっています。キーボード入力はローマ字の知識が必要になってきますので、3年生でローマ字学習に取り組む意義は、昔よりも大きいといえます。

